

科目名	現代の国語	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	高等学校 精選現代の国語(第一学習社)					
副教材	課題用問題集・図説・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	C
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 説明・記述問題への取り組み C 定期試験・小テスト D 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	「生きもの」 として生きる (中村桂子)	<input type="checkbox"/> 筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> ものの見方や捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。					
		<input type="checkbox"/> 例示などの修辞を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。					
5	水の東西 (山崎正和)	<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。			○	A	中間・ 期末試験
		<input type="checkbox"/> 個別の情報をもとに一般化しているかを進んで捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 筆者の提言に対する考えを積極的に考え、表現の仕方を工夫して書こうとしている。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。		○		B	
6	論理分析【対比】 「間」の感覚 (高階秀爾)	<input type="checkbox"/> 調べたことを整理して、説明資料にまとめる。					期末試験
		<input type="checkbox"/> 常用漢字を文や文章の中で活用する。					
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 文章の効果的な接続のしかたを理解する。					
		<input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。					
		<input type="checkbox"/> 情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 個別の情報を一般化する筆者の論理について自分の考えをもち、表現を工夫してまとめようとしている。			○	D	
6	論理分析【対比】 「間」の感覚 (高階秀爾)	<input type="checkbox"/> 水を用いた芸術や仕掛けについて積極的に題材を探し、表現の仕方を工夫して説明しようとしている。			○	D	期末試験
		<input type="checkbox"/> 文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。			○	A	

7	ものことば (鈴木孝夫)	<input type="checkbox"/> 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめようとしている。			○	ハ	
		<input type="checkbox"/> 具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 <input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 <input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、説明の仕方を工夫する。			○	C	
		<input type="checkbox"/> 言語について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 <input type="checkbox"/> 調べたことを整理して、説明資料にまとめる。			○	B	
		<input type="checkbox"/> 言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 <input type="checkbox"/> 常用漢字を文や文章の中で活用する。 <input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 <input type="checkbox"/> 文章の効果的な接続のしかたを理解する。 <input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。			○	C	
		<input type="checkbox"/> 具体例を示しながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って整理しようとしている。			○	B	
		<input type="checkbox"/> 筆者の主張に従って具体例を言葉で定義し、表現の仕方を工夫して説明しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 言葉が認識や思考を支えることについて、他のテキストと進んで読み合わせ、説明の仕方を工夫して、理解したことを報告しようとしている。			○	D	
		スピーチで自分を伝える	<input type="checkbox"/> 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 <input type="checkbox"/> 他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。			○	B
			<input type="checkbox"/> 進んで材料を集めたり吟味したりし、今までの学習を生かしてスピーチを行おうとしている。 <input type="checkbox"/> 進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。			○	A
			<input type="checkbox"/> 積極的にスピーチを聞き、評価シートを活用して評価しようとしている。			○	D

期末試験

2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	「文化」としての科学 (池内了)	<input type="checkbox"/> 筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 <input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 <input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。		○		C	中間試験
		<input type="checkbox"/> 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 <input type="checkbox"/> 科学や技術について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。		○		B	
9		<input type="checkbox"/> 常用漢字を文や文章の中で活用する。 <input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 文章の効果的な接続のしかたを理解する。 <input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。					
		<input type="checkbox"/> 接続の仕方に注目して文章の構成をつかみ、学習課題に沿って説明しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 文章から主張と論拠を読み取り、表現の仕方を工夫して自分の考えをまとめようとしている。			○	D	
10	論理分析【事実と意見】 「私作り」とプライバシー (阪本俊生)	<input type="checkbox"/> 文章を分析的に読み、事実から情報を抽出し、意見を形成していく論理の展開について理解する。 <input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 事実と意見を区別して粘り強く評論を読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめようとしている。			○	D	
10	法律の改正に関わる文章を読み比べる	<input type="checkbox"/> 改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。		○		B	中間・期末試験
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたを理解し、活用する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 異なる形式で書かれた複数の文章を粘り強く読み、理解したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめようとしている。			○	D	
11	不均等な時間 (内山節)	<input type="checkbox"/> 具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 <input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	期末試験
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 <input type="checkbox"/> 近代における時間について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。		○		B	

12	社会に対する意見文を書く	□常用漢字を文や文章の中で活用する。	○			C	期 末 試 験
		□語句の量を増やし、語彙を豊かにする。					
		□主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。					
		□対比による推論を叙述を基に理解し、学習課題に従って要旨をまとめようとしている。			○	A	
		□既習の評論と粘り強く読み比べ、積極的に持続可能な社会に関する意見文を書こうとしている。			○	D	
		□意見文とはどういうものかを理解する。		○		B	
		□自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。					
		□意見文の書き方を理解し、実践し、評価する。					
		□教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に意見文を書こうとしている。			○	A	
		□目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。			○	D	
□書いた意見文を進んで批評し合い、批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫しようとしている。							

3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	グローバル化の「遠近感」 (上田紀行)	<input type="checkbox"/> 「遠近感」の二重の意味を文脈から把握し、グローバル社会における問題を多様な視点から考える。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> グローバリズムについて述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。					
		<input type="checkbox"/> 常用漢字を文や文章の中で活用する。					
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
	<input type="checkbox"/> 言い換えなどの修辞を理解する。						
	<input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。						
	<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。			○	A		
	<input type="checkbox"/> 書き手の意図に対する自分の考えをもち、表現を工夫してまとめようとしている。			○	D		
	<input type="checkbox"/> 「『遠近感』をめぐる問題」について積極的に考え、学習課題に従ってまとめようとしている。			○	D		
2	論理分析 【主張と根拠】 デザインの本意 (原研哉)	<input type="checkbox"/> 文章を分析的に読み、根拠の妥当性と主張との関係を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する方法を学ぶ。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 筆者の主張とそれを支える根拠を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。			○	A	
	<input type="checkbox"/> 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめようとしている。			○	D		
3	理想の修学旅行をプレゼンする	<input type="checkbox"/> 情報を大勢の聞き手にわかりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 効果的なスライドの作り方を理解する。					
		<input type="checkbox"/> 今までの学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、積極的にプレゼンテーションを行おうとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 協働して資料や機器を用い、相手の理解を得られる工夫をしようとしている。			○	A	
	<input type="checkbox"/> 積極的にプレゼンテーションを聞き、評価の観点に沿って評価しようとしている。			○	D		

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	言語文化	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	高等学校 精選 言語文化(第一学習社)					
副教材	課題用問題集・図説・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	C
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 説明・記述問題への取り組み</p> <p>C 定期試験・小テスト</p> <p>D 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	「整のうへ」 (三好達二)	□文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の心情を読み取る。		○		C	中 間 試 験
		□情景にこめられた孤独感など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。					
	□繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。			○	A		
	□描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。						
	古文の学習	□我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。		○		B	
		□これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。			○	A	
	児のそら寝 古文を読むために 1	□古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。		○		C	
		□説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。					
		□作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。		○		B	
		□語句の量を増やし、語彙を豊かにする。					
		□主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	○			C	
		□積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。			○	A	
絵仏師良秀 古文を読むために 2	□時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。			○	A		
	□古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。				B		
	□説話から良秀の特異な言動を読み取り、内容や展開を的確に捉える。		○		C		
	□作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。						
	□語句の量を増やし、語彙を豊かにする。		○		C		
	□主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。	○			C		
	□積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。			○	A		
	□文の構成単位を理解し、学習の見通しをもって、文を文節や単語に分けようとしている。			○	D		
5	漢文の学習	□我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。		○		B	
		□我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。	○			C	
		□これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深めている。			○	A	
	訓読に親しむ 漢文を読むために	□漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。					
		□漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。	○			C	
	□漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。						
	□故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。						
	□我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。	○			C		

		□訓読のきまりを理解する。	○		○	C	
		□これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。			○	A	
		□日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。				D	
6	なよ竹のかぐや姫	□古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。		○		B	期 末 試 験
		□伝奇的作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。		○		C	
		□作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	○			C	
		□語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		□古語辞典の引き方に慣れ、主として活用について、文語のきまりを理解する。	○			C	
		□初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。			○	D	
		□用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。			○	D	
6	「I was born」 (吉野弘)	□散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。		○		C	期 末 試 験
		□「僕」「父」の心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。				D	
		□繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。			○	D	
		□「僕」の理解したイメージを自分事として共有し、考えたことを積極的に話し合おうとしている。			○	A	
		□漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	○			C	
		□文章の種類を踏まえて、たとえ語を読み解き、内容や展開を的確に捉える。		○		C	
		□作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。				D	
7	漁父之利 狐借虎威 蛇足	□作品の歴史的・文化的背景を理解する。	○			C	中 間 試 験
		□訓読のきまりを理解する。	○			C	
		□故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	○			C	
		□故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。			○	D	
		□下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。		○		C	
		□小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。		○		C	
		□作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。				D	
7	「羅生門」 (芥川龍之介)	□作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。		○		C	中 間 試 験
		□常用漢字を文や文章の中で活用する。			○	A	
		□語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		□登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。			○	A	
		□老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、学習課題に沿って、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。			○	A	
		□典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまとめようとしている。			○	D	

2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
8 9	〔言語活動〕 古典から受け継がれる話の由来を調べる	<input type="checkbox"/> 文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。		○		C	中 間 試 験	
		<input type="checkbox"/> 課題に応じて調査する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 言語文化の継承に関心と自覚をもち、図書館の資料などを用いて、話の由来について調べようとしている。			○			A
	伊勢物語 〔歴史の窓〕 古文を読むために 3	<input type="checkbox"/> 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。						C
		<input type="checkbox"/> 歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。		○				C
		<input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。						
		<input type="checkbox"/> 「東下り」では課題に応じて調査する。		○				B
		<input type="checkbox"/> 「芥川」では絵画資料と、「東下り」では他の章段と、「筒井筒」では『大和物語』の同話と、それぞれ読み比べ、解釈を深める。		○				C
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。						
		<input type="checkbox"/> 「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 <input type="checkbox"/> 主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。	○					C
完璧	<input type="checkbox"/> 歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。				○	A		
	<input type="checkbox"/> 学習課題に沿って異なるテキストと読み比べ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。							
	<input type="checkbox"/> 史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた藺相如の考えや人物像を読み取る。		○			C		
	<input type="checkbox"/> 史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。							
	<input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。							
	<input type="checkbox"/> 「澗池の会」と読み比べ、課題に応じて調査する。		○			B		
10 先従隗始	<input type="checkbox"/> 訓読のきまりを理解する。					C		
	<input type="checkbox"/> 「完璧」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	○				C		
	<input type="checkbox"/> 積極的に史伝を読み、藺相如の考え方や人物像を説明しようとしている。				○	A		
	<input type="checkbox"/> 藺相如の登場する別の話と粘り強く読み比べ、表された人物像の相違点をまとめようとしている。							
	<input type="checkbox"/> 戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。		○			C		
	<input type="checkbox"/> 史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。							
	<input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。							
	<input type="checkbox"/> 訓読のきまりを理解する。							
	<input type="checkbox"/> 「先従隗始」の由来と現代の意味の違いを知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	○				C		
	<input type="checkbox"/> 積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。				○	A		

11	枕草子 古文を読むために4 〔歴史の窓〕	<input type="checkbox"/> 自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 <input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 <input type="checkbox"/> 「九月ばかり」では課題に応じて調査する。												
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 <input type="checkbox"/> 「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 <input type="checkbox"/> 主として助動詞について、文語のきまりを理解する。 <input type="checkbox"/> 「はしたなきもの」では時間の経過による言葉の変化について理解する。												
		<input type="checkbox"/> 学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。												
		<input type="checkbox"/> 作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。												
		徒然草 古文を読むために6 〔歴史の窓〕	<input type="checkbox"/> 『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 <input type="checkbox"/> さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 <input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 <input type="checkbox"/> 「花は盛りに」では課題に応じて調査する。											
			<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 <input type="checkbox"/> 「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 <input type="checkbox"/> 主として敬語について文語のきまりを理解する。											
<input type="checkbox"/> 随筆の内容・構成などを粘り強く把握し、学習課題に沿って説明しようとしている。														
<input type="checkbox"/> 本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。														
12	夢十夜 (夏目漱石) 文学のしるべ		<input type="checkbox"/> 「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。 <input type="checkbox"/> 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 <input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。											
			<input type="checkbox"/> 常用漢字を文や文章の中で活用する。											
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。												
		<input type="checkbox"/> 「夢」という設定の中での判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界を解釈して説明しようとしている <input type="checkbox"/> 『夢十夜』の他の話を積極的に読み、あらすじをまとめて発表しようとしている。												
		唐詩の世界 漢詩のきまり 〔歴史の窓〕	<input type="checkbox"/> 表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 <input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。											
			<input type="checkbox"/> 作品の歴史的・文化的背景を理解する。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解する。											
<input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。														
<input type="checkbox"/> 粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。														

期
末
試
験

学
年
末
試
験

3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	その子二十	<input type="checkbox"/> 我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 我が国の言語文化に特徴的な、短歌の表現の技法とその効果について理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。			○	A	
	土佐日記 古文を読むために5	<input type="checkbox"/> 我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 「門出」「亡児」では課題に応じて調査する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
2	桃花源記	<input type="checkbox"/> 漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、桃源郷の由来ともなった理想郷のあり方を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 『老子』の「小国寡民」と読み比べる課題に応じて調査する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 訓読のきまりを理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 長めの文章を粘り強く読み、内容や展開を説明しようとしている。			○	A	
3	平家物語 〔古典のしるべ〕和漢混交文	<input type="checkbox"/> 合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 主として敬語について文語のきまりを理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 「古典のしるべ」と読み合わせて、歴史的な文体の変化について理解する。				C	
		<input type="checkbox"/> 作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。			○	A	
<input type="checkbox"/> 文体の歴史的背景を踏まえて本文を読み、学習の見通しをもって表現や描写・文体の特色を評価しようとしている。			○	A			

城の崎にて (志賀直哉) 文学のしるべ	<input type="checkbox"/> 三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。 <input type="checkbox"/> 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 <input type="checkbox"/> 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 <input type="checkbox"/> 作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。		○		C
	<input type="checkbox"/> 常用漢字を文や文章の中で活用する。 <input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C
	<input type="checkbox"/> 作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。			○	A
	<input type="checkbox"/> 『いのち』と粘り強く読み比べ、自分の考えを論述しようとしている。			○	D

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	地理総合	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）					
副教材	高等学校新地理総合ノート（帝国書院） 最新地理図表ジオGEO(第一学習社)					

学習の到達目標	<p>ア 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 （また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。）</p> <p>イ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係、空間、地域などに着目して、多面的・多角的に考える。 （また、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。）</p> <p>ウ 地理に関わる諸事象を学ぶ中で、よりよい社会を実現するための課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につける。 （また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深める。）</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で自然システムや社会・経済システムを理解している。 ・調査や地図・統計などの諸資料から地理に関する情報を効果的に収集し、読み取り、まとめることができる技能を身につけている。 	A B C
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・地理にかかわる諸事象の意味や意義、特色や多面的・多角的に考察し、表現している。また、地域規模におけるさまざまな課題について課題を把握し、その解決に向けて構想し、表現している。 ・考察や構想したことについて適切な資料・表現方法を選び効果的に説明したり、それをもとに議論している。 	A B D
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科における学習の成果を生かし、「地理総合」を学ぶ意義や目的、地理的視点にもとづく多面的・多角的な考察の方法について理解し、課題意識をもって主体的に学習活動に取り組んでいる。 	B C D
評価方法	<p>A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 学習に対する意欲・態度</p>	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
断 思 考 表 現 現 判	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	地図・グラフを活用し、地理的事象から課題を考察し、発表に向かっている表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問うことのできる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第1部 地図でとらえる現代世界	地理の読図などから地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、地理情報の収集し読み取る技能を身につけている。	○	○		A B	中間試験
	第1章 地図と地理情報システム	地図や地理情報システムについて、その目的や内容、活用の仕方について考察・表現している。	○	○		C D	
		地図や地理情報システムについて、そこでみられる課題を主体的に追究し、課題を解決しようとしている。	○		○	C D	
5	第2章 結びつきを深める現代世界	現代世界の様々な地図の読図などを通して、方位や時差、日本の領域のほか、国内や国家間の結びつきを理解している。	○			A B	中間・期末試験
	第1節 現代世界の国家と領域	現代の地域構成について、世界的視野からみた日本の位置や国内・国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察・表現している。	○	○		A D	
	第2節 グローバル化する世界	現代世界の地域構成について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		○	○	C D	
6	第2部 国際理解と国際協力	世界の人々の生活文化について学び、地理的環境と人々の生活文化の関係と多様性、およびその変化について理解している。	○			A B	中間・期末試験
	第1章 世界の地形と人々の生活	世界の人々の生活文化について、自然および社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現している。		○		A B	
	1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	生活文化の多様性と国際理解について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。		○	○	C D	
7	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	言語や民族、宗教と人々の生活への影響について自然環境も考慮に入れながら理解している。	○			A	期末試験
		言語や民族、宗教と人々の生活の関係を、近年の状況を織り込みつつ多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A B	
		言語や民族、宗教と人々の生活の関係について、より良い社会の実現を視野に入れながら、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		○	○	B D	

2 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	第2部 国際理解と国際協力	世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化と、その歴史的背景について理解している。	○			A B	中間試験
	第1章 世界の地形と人々の生活	世界各地の生活文化とその歴史的背景の関係について多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A B	
	4節 歴史的背景と人々の生活	世界各地の生活文化に影響した歴史的背景と、生活の変化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		○	○	C D	
10	5節 世界の産業と人々の生活	各産業の発展と、それが及ぼす人々の生活への影響、およびその課題について地域ごとの特色をふまえて理解している。	○	○		A C	中間・期末試験
		産業の発展と生活の変化、および課題について各産業分野、地域的特色を含めて多面的・多角的に考察して表現している。		○	○	A C	
		産業の発展と生活の変化について、よりよい社会の実現を視野に入れ、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		○	○	B D	
11	第2章 地球的課題と国際協力	世界各地で見られるさまざまな課題について、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。また自然環境や社会・政治・経済面との関係や、課題解決に向けた様々な取り組みの様子を理解している。	○	○		A B	中間・期末試験
	1節 複雑に絡み合う地球的課題						
	2節 地球環境問題						
	3節 資源・エネルギー問題	世界各地で見られる課題について、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国および国際機関の取り組みが必要であることについて理解している。	○			A B	
12	4節 人口問題	世界各地で見られる地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○	A C	期末試験
	5節 食糧問題						
	6節 都市・居住問題	地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		○	○	B D	

3 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1 2	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	さまざまな自然災害について規模や頻度、地域性をふまえた備えや対応の重要性などについて理解している。また、自然災害に対応した地理情報について、情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身につけている。	○	○		A B	学年末試験
	第1章 自然環境と防災	地域性をふまえた防災について、自然・社会的条件や地域性、持続可能性などに着目して主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多角的・多面的に考察し、表現している。	○	○		B C	
		自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。			○	C D	
3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	○		○	A C	
		生活圏の地理的な課題について、生活圏内外の結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域作りなどに着目して主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。		○	○	A C	
		生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。			○	D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けてい

;)
 る。

科目名	歴史総合	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	歴史総合（実教出版）					
副教材	歴史総合 演習ノート（実教出版）、明解歴史総合図説 シンフォニア（帝国書院）					

学習の到達目標	<p>ア 近現代の歴史の変化に関わる出来事について、世界と其中的の日本を相互の視点から捉え、現代的な諸課題に関わる歴史を理解する。 （諸資料から歴史に関する様々な情報を調べ、まとめる技能を身につける。）</p> <p>イ 近現代の歴史の変化に関わる事からの意味や意義、特色を、現在とのつながりに着目し、多面的・多角的に考える。 （歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。）</p> <p>ウ 近現代の歴史の変化に関わる出来事を学ぶ中で、よりよい社会を実現するための課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につける。 （日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。）</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 	B C D E
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 	B C D E
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 中学校社会科における学習の成果を生かし、「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。 	A B C D E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるグループワークへの取り組み C 発表 D 定期試験・小テスト E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック（歴史総合）					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっている表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第1編 近代化と私たち	17世紀から始まり18世紀から19世紀にかけて、日本の4つの口を通しての周辺地域との関係を理解している。	○				中間試験
		第1章 近代化への胎動	周辺地域の動向を比較したり、相互に関連付け、考察している。		○		
		18世紀とその前後の日本における経済活動の特徴、清などのアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
5	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の政治を理解している。	○				
		ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、アジアとの関係を相互に関連付け、考察する。		○			
		18世紀とその前後の世界全体の経済活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、江戸幕府が崩壊していく関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
6	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などを理解している。	○				
		日本とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付け、考察する。		○			
		19世紀後半の日本における経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
7	第4章 帝国主義の時代	19世紀から20世紀初頭にかけてのアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響を理解する。	○				期末試験
		アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付け、考察する。		○			
		19世紀から20世紀初頭のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		

2 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などを理解している。	○				中間試験
		日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付け、考察する。		○			
		第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
		第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付け、考察する。		○			
		第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
10	第6章 経済危機と第二次世界大戦	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化を理解する。	○				中間・期末試験
		日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付け、考察する。		○			
		各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
		第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などを理解している。	○				
11		日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付け、考察する。		○			期末試験
		第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
		第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などを理解している。	○				
12		日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付け、考察する。		○			期末試験
		第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		

3 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	第3編 グローバル化と私たち	地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などを理解する。	○				学年末試験
2							
3		日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付け、考察する。		○			
		地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		
		冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響を理解する。		○			
		日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○		

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けてい

;)
 る。

科目名	数学Ⅰ・数学A	単位数	5	履修学年	1	必修
使用教科書	新編 数学Ⅰ, 数学A (数研出版)					
副教材	「REPEAT 数学Ⅰ+A」 「チャート式解法と演習数学Ⅰ+A」 (数研出版)					

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 ・ 図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現及び処理したりする技能を身につけている。	B C
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する能力を身につけている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断したりしようする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を身につけている。	A D
評価方法	A 授業態度 B 定期試験 C 単元テスト D 課題	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	評価の割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	B 定期試験	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	50
	C 単元テスト	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
思考・表現・判断	B 定期試験	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	30
	C 単元テスト	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
主体的に学習に取り組む態度	A 授業態度	授業に意欲的に取り組み、主体的な態度である	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない	20
	D 課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見とれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

※基準点は、テスト毎の難易度により変動

数学科の育てたい資質能力	
(1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力	
(2) 探究力：物事を見極め追求し、課題を解決する力	
(3) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力	
小山西高校の育てたい資質能力	
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4 5	< 数学 I > 第 1 章 数と式	<input type="checkbox"/> 式の特徴に着目して変形したり、式を1つの文字におき換えたりすることによって、式の計算を簡略化することができる。		○		C	中間試験
		<input type="checkbox"/> 因数分解の公式を利用することができる。	○			B	
	第1節 式の計算	<input type="checkbox"/> 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開が使えることに関心をもち、考察しようとする。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 循環小数が分数で表現できる事に関心をもち、考察しようとする。			○	D	
	第2節 実数	<input type="checkbox"/> 絶対値・平方根の意味・性質・記号表示を理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 対称式の値の求め方に興味を示し、自ら考察しようとする。			○	D	
	第3節 1次不等式	<input type="checkbox"/> 不等式における解の意味を理解し、一次不等式を解くことができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 身近な問題を1次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。	○			C	
	第 2 章 集合と命題	<input type="checkbox"/> 空集合、共通部分、和集合、補集合について理解し、ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。	○			B	
<input type="checkbox"/> 3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。				○	D		
<input type="checkbox"/> 条件と集合の関係を理解し、必要条件、十分条件を集合の関係でとらえることができる。			○		C		
<input type="checkbox"/> 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。		○			C		
6	第 3 章 2 次関数 第1節 2 次関数と グラフ	<input type="checkbox"/> ax^2+bx+c を $a(x-p)^2+q$ の形に変形できる。	○			B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 平方完成を利用して、2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかきことができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> グラフの平行移動・対称移動の一般公式を積極的に利用しようとする。			○	D	
	第2節 2次関数の値の 変化	<input type="checkbox"/> グラフの平行移動・対称移動の一般公式を活用して、平行移動後の放物線の方程式を求めることができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、最大値、最小値を求めることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値が求められることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 定義域が変化するときの関数の最大値や最小値について考察することができる。		○		C	
	第3節 2次方程式と 2次不等式	<input type="checkbox"/> 2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 2次方程式の解の考察において、判別式Dの符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 2次不等式を解くことができる。	○			B	
< 数学 A > 第 1 章 場合の数と 確率 第1節 場合の数	<input type="checkbox"/> ベン図・公式を利用して、和集合、補集合の要素の個数を求めることができる。	○			B		
	<input type="checkbox"/> 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。	○			B		
	<input type="checkbox"/> 自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。			○	A		
	<input type="checkbox"/> 順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用することができる。	○			B		

7	第2節 確率	<input type="checkbox"/> 条件が付く順列，円順列を，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。		○		C	期 末 試 験
		<input type="checkbox"/> 順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 条件が付く組合せを，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 試行の結果を集合と結びつけて，事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 確率の定義から，その求め方がわかる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 確率の性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 独立な試行の確率や反復試行の確率を，具体的な例から直観的に考えることができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 条件付き確率を記号を用いて表すことができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 期待値の定義を理解し，期待値を求めることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 日常の事象における不確実な事柄について判断する際，期待値を用いて比較し，考察しようとする。			○	A	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9 10	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	□三角形の外心・内心・重心の定義，性質を理解している。	○			C	中間試験
		□チェバの定理・メネラウスの定理を理解し，三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。	○			B	
		□三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を，論理的に考察しようとする。			○	A	
	第2節 空間図形	□円に内接する四角形の性質，円の接線と弦の作る角の性質を利用して，角度を求めることができる。	○			B	
		□2つの円を動的にとらえて，それらの位置関係を考察することができる。		○		C	
		□共通接線の定義を理解し，その長さの求め方がわかる。	○			B	
		□空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。	○			B	
	□オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。			○	D		
11 12	<数学 I >	□直角三角形において，正弦・余弦・正接が求められる。	○			B	期末試験
	第4章 図形と計量 第1節 三角比	□具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。		○		C	
		□三角比の相互関係を利用して，1つの値から残りの値が求められる。	○			B	
	第2節 三角形への応用	□三角比が与えられたときの θ を求める際に，図を積極的に利用しようとする。			○	A	
		□正弦定理や余弦定理を用いて，三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	○			B	
		□三角形の面積を，決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。		○		C	
		□正弦定理，余弦定理を空間図形の計量に応用できる。	○			C	
		□測量や空間図形への応用では，適当な三角形に着目して考察できる。	○			C	
	第5章 データの分析	□データの分布の仕方によっては，代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。		○		C	
		□分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。	○			B	
		□変数の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するか，考察しようとする。			○	A	
□相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること，数値化して扱うことのよさを理解している。			○		C		
□仮説検定の考え方を理解し，具体的な事象に当てはめて考えることができる。		○			C		

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1 2	<数学A> 第3章 数学と人間の活動	<input type="checkbox"/> 倍数の判定法について理解している。	○			B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 数学史に興味・関心を持ち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求め方を理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 身近な事象について数学的に捉え、最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 素因数分解をしなくても、互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 1次不定方程式、整数解の意味を理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> n進法の整数を10進法で、10進法の整数をn進法で表すことができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 地上・空間における特定に地点を、座標平面・座標空間上の点と捉えて位置を座標で表現できる。	○			C	
3	発展・応用問題	<input type="checkbox"/> ゲームの設定を多面的かつ論理的に考え、ゲームに勝つ方法を導くことができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> ゲームで勝つ方法やパズルの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。			○	A	
				○	D		

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	生物基礎	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	生物基礎 (数研出版)					
副教材	セミナー生物基礎 (第一学習社) 新課程版ネオパル生物基礎 (第一学習社) 二訂版 ニューステージ生物図表 (浜島書店)					

学習の到達目標	<p>ア 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験に関する基本的な技能を身につける。</p> <p>イ 観察・実験等の体験活動を通して、科学的に探究する力を養う。</p> <p>ウ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	A D E
思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力を身につけています。	B C D E
主体的に学習に取り組む態度	「知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力を身につける過程」において、粘り強く学習に取り組むことができます。また、自ら学習を調整していくことができます。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 実験やグループワークでの取り組み C プレゼンテーション発表・自己評価・相互評価 D 定期試験・小テスト E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が90%以上	各小テストでの平均点が70%～89%	各小テストでの平均点が69%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が60%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30～59%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が29%以下	30
	プレゼンテーション・レポート	十分に準備をして臨み、表現力も豊かである 目的・本質を捉えたレポートになっている	内容は良いが、思うような表現ができていない レポートが感想になっている	準備が不十分である 期日までに未提出である	
関心・意欲・態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	20
	実験・探究活動等グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる レポート課題の目的を理解し、結果や知見から考察ができ、本質を捉えることができています	すべての課題が提出されている 行った試技から、現象を捉え、データとしてまとめられている	課題が提出されていない 試技の感想に留まるなど、活動の本質が理解されていない	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め、追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4 5	第1編 生物の特徴	□生物には共通性があり、それが共通の祖先に由来することを理解している。	○			D	中間試験
	1章 生物の特徴	□観察により様々な生物が細胞からできていることを確かめることができる。		○		B	
	1節 生物の多様性と共通性	□観察により原核細胞と真核細胞の違いを理解することができる。			○	A	
	2節 エネルギーと代謝	□生命活動にはエネルギーが必要であり、ATPから供給されることを理解している。	○			D	
		□ATPの構造と生命活動にエネルギーを供給するしくみを理解している。	○			D	
		3節 呼吸と光合成	□生体内で起こる同化反応、異化反応の概要を理解している。	○			
	□生体内の化学反応が酵素の働きによって進行することを理解している。		○		C		
	□実験により、酵素の特徴や性質を確かめ、理解することができる。			○	E		
6 7	第2編 ヒトの 体内環境の維持	□体内での情報伝達が、体の状態の調節に関係していることを理解している。	○			D	期末試験
3章 ヒトの体内環境の維持	□体の状態の変化を交感神経・副交感神経の働きに着目して説明することができる		○		B		
	□神経の分類ができ、体内環境の調節に関わる部位や経路を理解している。	○			D		
	1節 体内での情報伝達と調節	□神経系・内分泌系それぞれの情報伝達や調節の仕組みを理解している。	○			D	
	□内分泌腺、ホルモン名、ホルモンの働きを関連づけて理解している。		○		E		
	□ホルモンのフィードバックによる分泌量調節の仕組みを説明できる。		○		C		

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第2編 ヒトの 体内環境の維持 3章 ヒトの体内環境の維持 2節 体内環境維持のしくみ 3節 免疫のはたらき	<input type="checkbox"/> 自律神経系と内分泌系により体内環境が調節されることが理解できている。	○			D	中間試験
9		<input type="checkbox"/> 血糖濃度調節のしくみを理解し、実験例を基に説明することができる。		○		B	
10		<input type="checkbox"/> 体温調節のしくみを理解し、実験例を基に説明することができる。			○	E	
		<input type="checkbox"/> 糖尿病の症例や治療方法等を自ら調べたり、考えたりしている。		○		A	
		<input type="checkbox"/> からだを守るしくみを、物理的・化学的・生物学的な観点から理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 自然免疫, 適応免疫のしくみをそれぞれ理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 自然免疫, 獲得免疫に関わる細胞の役割を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 食作用に関して観察や実験を通して現象を捉え、理解することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 体液性免疫・細胞性免疫の違いを理解し、抗原排除の説明ができる。			○	E	
10		<input type="checkbox"/> リンパ球の種類と抗原に対する応答の仕方を理解している。	○			D	
11		<input type="checkbox"/> 二次応答のしくみを理解し、グラフから抗体産生の特徴を説明できる。		○		B	
12		<input type="checkbox"/> 免疫反応が劇症化する事例について理解し、しくみを説明できる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 免疫が引き起こす病気のしくみを理解して発病理由について説明できる。	○			D	
	<input type="checkbox"/> 免疫の医療への応用事例を踏まえ、今後の可能性を議論することができる。			○	A		

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	第3編 生物の 多様性と生態系 4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	<input type="checkbox"/> 植生の特徴と気候区分の関係性を理解できる。	○			D	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 遷移の過程（順番）と遷移を進める要因について理解し、説明できる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 光環境と光合成速度についての傾向をグラフから読み取ることができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 植生調査を遂行し、身近な植生の特徴を考察することができる。			○	E	
2	2節 植生の分布とバイオーム	<input type="checkbox"/> ギャップ更新や二次遷移等、遷移の多様性と遷移速度について説明できる。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 気温と降水量がバイオームの決定に寄与していることを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 各バイオームの特徴を雨温図や写真の特徴から判別することができる。		○		E	
		<input type="checkbox"/> 日本のバイオームを水平分布、垂直分布の両観点から理解し、説明できる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 暖かさの指数が計算でき、気温とバイオームの関係を理解している。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 日本の植生の特徴、照葉樹と夏緑樹の特徴を捉え、説明することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> バイームの変化から地球環境保全のこれからのあり方を考えることができる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 生態系の構成（全体像）を俯瞰的に捉えようとしている。	○			D	
3	3節 生態系と生物の多様性	<input type="checkbox"/> 生態系において種の多様性が維持されるしくみを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 生物同士の繋がりを理解し、各生物量を計算で求めることができる。		○		A	
		<input type="checkbox"/> 栄養段階と食物連鎖から、生態ピラミッドを構築することができる。	○			D	
		<input type="checkbox"/> バランスが保たれる状態とはどのような状態か理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 生態系のバランスを乱す生物によりどのような変化が起きたか説明できる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 自然浄化のしくみを理解し、グラフから浄化作用を考察することができる。		○	○	B	
3	4節 生態系のバランスと保全	<input type="checkbox"/> 保全のために行われている活動を知り、自分の考えを持つことができる。			○	E	
		<input type="checkbox"/> 生態系からの恩恵をサービスの視点から捉えることができる。			○	A	
次年度以降：第1編 2章 遺伝子とそのはたらき							

科目名	物理基礎	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	物理基礎（数研出版）					
副教材	新編 物理基礎準拠サポートノート（数研出版） フォトサイエンス物理図録（数研出版）					

学習の到達目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できたか。 ・得た知識や理解したことを、その後の学習や生活の中で応用しようとしているか。 	A B C
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断しているか。 ・課題設定を行い、得られた結果から自らの考えを文章や自分の言葉にして伝えることができているか、 	A B C E
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象（特に物理的な）に対して興味・関心を高めているか。 ・意欲的に課題を追求する態度を身につけているか。 	B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度 E プレゼンテーション、課題研究での内容	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・現判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が16～29%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が15%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを隠せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
4 5 6	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	□物理量の測定と扱い方 身近な物理現象について、物理量の測定と表し、分析の手法を理解している。	○			A	中間試験
		□運動の表し方 物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解している。	○			A	
		□直線運動の加速度 速度が変化する物体の直線運動に関する実験などを行い、速度と時間との関係を見いだして理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を理解している。	○			A	
		□物体の落下運動 物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解している。	○		○	D	
7	第2章 運動の法則	□様々な力 物体に様々な力が働くことを理解している。	○		○	D	期末試験
		□力のつり合い 物体に働く力のつり合いを理解している。	○			A	
		□運動の法則 物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだして理解するとともに、運動の三法則を理解している。	○	○		E	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
8 9 10	第3章 仕事と力学的エネルギー	<input type="checkbox"/> 仕事 仕事の定義について理解している。	○			A	中間試験
		<input type="checkbox"/> 運動エネルギーと位置エネルギー 運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解している。	○			A	
		<input type="checkbox"/> 力学的エネルギーの保存 力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解している。	○		○	C	
11 12	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	<input type="checkbox"/> 熱と温度 熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解している。	○			A	期末試験
		<input type="checkbox"/> 熱の利用 熱に関する実験などを行い、熱の移動及び熱と仕事の変換について理解している。	○			A	
12	第3編 波 第1章 波の性質	<input type="checkbox"/> 波の性質 波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解している。	○	○		B	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
1	第2章 音	<input type="checkbox"/> 音と振動 気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて理解している。また、弦の振動、音波の性質を理解している。	○	○	○	D	学年末試験
2	第4章 電気	<input type="checkbox"/> 物質と電気抵抗 電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見いだして理解している。また、物質によって抵抗率が異なることを理解している。	○	○		A	
		<input type="checkbox"/> 電気の利用 発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解している。	○			A	
3	第5章 物理学と社会	<input type="checkbox"/> エネルギーとその利用 人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な観点から理解している。	○			A	
		<input type="checkbox"/> 物理学が拓く世界 この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解している。	○			A	

科目名	保健	単位数	1	履修学年	1	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）					
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）					

学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	B C D
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	A B C
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養っている。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業における意見発表 C ノート D 定期試験 E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が90%以上	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が69%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
断 思 考 表 現 判	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	発表に向かう態度や表現が優れている	発表に向かう態度が良好で、間違いを臆せず表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	20
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	他者に配慮し、協力しながら意欲的に取り組んでいる。	他者に配慮しながら、自分のやるべき活動をこなしている。	他者理解ができず、やるべき活動をしていない。	
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

保健体育科の育てたい資質能力

- (1) 向上心：目標に向かって挑戦し、自己をより高めようとする力
- (2) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力
- (3) 継続力：途中であきらめず粘り強く取り組む力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲		
			知識技能	思考判断表現	態度				
4	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	<input type="checkbox"/> さまざまな健康の考え方について理解している。	○			C	期末試験		
		<input type="checkbox"/> わが国の健康水準の変化とその背景について理解している。							
		<input type="checkbox"/> 健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。				○		○	B
		<input type="checkbox"/> わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。							
5	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	<input type="checkbox"/> 生活習慣病の種類と要因を理解している。	○			D			
		<input type="checkbox"/> がんのおもな治療法やケアについて理解している。							
6	がんの治療と回復 運動と健康	<input type="checkbox"/> 健康と運動、食事と健康、休養・睡眠と健康の関係について理解している。							
		<input type="checkbox"/> 生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。							
7	食事と健康 休養・睡眠と健康	<input type="checkbox"/> 健康的な運動のしかた、食事のとり方について説明できる。		○		A			
		<input type="checkbox"/> 健康と睡眠の関係及び健康により睡眠の取り方について説明できる。							

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	喫煙と健康	<input type="checkbox"/> 喫煙と飲酒による健康への影響を理解している。	○			B	期末試験
	飲酒と健康	<input type="checkbox"/> 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響を理解している。					
9	薬物乱用と健康	<input type="checkbox"/> 喫煙対策と飲酒による健康問題について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。		○	○	A	
		<input type="checkbox"/> 薬物乱用防止のため個人や社会環境への対策例をあげることができる。					
10	精神疾患の特徴	<input type="checkbox"/> 精神疾患の発病の要因とおもな症状、予防、治療について理解している。	○			C	
	精神疾患の予防	<input type="checkbox"/> 現代社会における精神保健の課題をあげることができる。					
	精神疾患からの回復	<input type="checkbox"/> 精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。		○		C	
11	現代の感染症	<input type="checkbox"/> 感染症とは何かについて潜伏期間や感染力、予防も含めて理解している。	○			D	
	感染症の予防	<input type="checkbox"/> 性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解している。					
	性感染症・エイズとその予防	<input type="checkbox"/> 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。		○	○	A	
		<input type="checkbox"/> 性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。					
12	健康に関する意思決定・行動選択	<input type="checkbox"/> 意志決定・行動選択に影響を与える要因について理解している。	○			D	
	健康に関する環境づくり	<input type="checkbox"/> ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。		○	○	B	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成	<input type="checkbox"/> 事故の実態と被害の実態について理解している。	○			C	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 安全のために必要な個人の行動について理解している。					
2	交通における安全	<input type="checkbox"/> すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげ説明できる。		○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 交通事故における責任を3つに分けて説明できる。					
3	応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	<input type="checkbox"/> 応急手当の意義について理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 日常的なけがや熱中症の応急手当が実際にできる。		○	○	A	
		<input type="checkbox"/> 心配蘇生法の方法と手順が説明でき、実際におこなうことができる。		○	○	A	

科目名	体育	単位数	3	履修学年	1	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）					
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館） ステップアップ高校スポーツ2025（大修館）					

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	B C D
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	A C D
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養っている。</p>	A B E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度 B 授業における発表 C スキルテスト・記録・ノート D 定期試験 E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	スキルテスト	スキルテストでの得点が80%以上	スキルテストでの得点が50%以上	スキルテストでの得点が49%以下	40
	タイムトライアル	タイムトライアルの得点がとても優れている	タイムトライアルの得点が優れている	タイムトライアルの得点が劣る	
	知識テスト	得点が80%以上	得点が50%以上	得点が49%以下	
	成果発表	基本的な技術が十分身についており、実践できている。	基本的な技術の習得に粘り強く取り組み、実践できている。	基本的な技術の習得ができていない。	
断 思 考 表 現 判	レポート	分量も満たしており、内容にも工夫がみられ、十分表現がなされている	分量・内容ともに適切である。	分量が不十分であり、適切な内容ではない	30
	成果発表	行事等を含めた発表に向かう態度や表現が優れている	行事等を含めた発表に向かう態度が良好である。	積極的に発表を行おうとしていない	
体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態	授業に対する意欲態度	授業の中で他の生徒との活動で中心となり、目的や目標を十分理解した上で授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	目的や目標を理解した上で授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	目的や目標を理解しておらず、授業に意欲的に取り組んでいないと評価されている	30
	授業における健康・安全への配慮	授業全体を通して、起こりうる怪我や事故等を予測し、他の生徒と協力して、健康・安全に対する配慮が十分なされている	自分の身の回りについて、健康・安全に対する配慮がなされている	健康・安全に対する配慮がなされておらず、怪我や事故につながる行動をとってしまっている	

保健体育科の育てたい資質能力

- (1) 向上心：目標に向かって挑戦し、自己をより高めようとする力
- (2) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力
- (3) 継続力：途中であきらめず粘り強く取り組む力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	ガイダンス 体づくり運動	□体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、健康・安全を確保して取り組んでいる。		○		B	期末試験
5	○選択Ⅰ [コ・ル型…バスケボール、] [ネット型…バドミントン、バレーボール、卓球] [バ・スホ・ル型…サッカー]	□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。	○			C	
		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○		A	
6		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○		○	B	
	○体育理論	□スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	○			D	
7		□スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できる。		○		A	
	○選択Ⅱ 水泳・武道・ダンス から選択 [水泳…複数の泳法で長く泳ぐ] [武道…柔道・剣道] [ダンス…創作ダンス]	□自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。	○			C	
		□自己に適した得意技を用いた攻防が展開できる。					
		□特有の表現や踊りを身につけて、交流や発表ができる。					
		□生涯にわたって運動を豊かに実践するために、取り組み方を工夫している。		○	○	A	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	○選択Ⅱ 水泳・武道・ダンスから選択 〔水泳…複数の泳法で長く泳ぐ〕 〔武道…柔道・剣道〕 〔ダンス…創作ダンス〕	□自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。	○			C	期末試験
9		□自己に適した得意技を用いた攻防が展開できる。					
9		□特有の表現や踊りを身につけて、交流や発表ができる。					
10	○陸上競技 ・長距離走 ・校内持久走大会 (男子20Km、女子15Km)	□生涯にわたって運動を豊かに実践するために、取り組み方を工夫している。		○	○	A	
10		□自己の課題に応じて適切な練習方法を選んでいる。	○	○	○	A	
11	○体育理論	□自己に適したペースを維持して走ることができる。	○			C	
11		□スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	○			D	
12	○選択Ⅲ 〔ボール型…バスケットボール、ハンドボール、サッカー〕 〔ネット型…バドミントン、バレーボール、卓球〕 ※選択Ⅰと違う型を選択	□スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できる。		○		A	
12		□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。	○			C	
12		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○		A	
		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○		○	B	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	○体育理論	□スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	○			D	学年末試験
		□スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できる。		○		A	
2	○選択Ⅲ [ゴール型…バスケットボール, ハンドボール, サッカー] [ネット型…バドミントン, バレーボール, 卓球] ※選択Ⅰと違う型を選択	□技術などの名称や行い方, 競技会の仕方などを理解している。	○			C	
		□チームや自己の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて工夫している。		○		A	
3		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう, フェアプレイを大切にしようとしている。	○		○	B	

科目名	音楽 I	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)					
副教材						

学習の到達目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<input type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 <input type="checkbox"/> 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようとしている。	B C D E
思考・判断・表現	<input type="checkbox"/> 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫している。 <input type="checkbox"/> 音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。	B C D E
主体的に学習に取り組む態度	<input type="checkbox"/> 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育もうとしている。 <input type="checkbox"/> 感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしている。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるグループワークへの取り組み C 実技試験および発表 D 作品提出 E ワークシート	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	実技試験および発表	歌唱の技能や楽器の演奏技術を十分に身につけ、表現意図によって技術を使い分けた演奏ができる	基礎的な歌唱の技能や楽器の演奏技術を身につけ、表現意図と結びついた演奏ができる	表現意図と結びついた演奏をするための基礎的な技能・技術を身につけていない
	作品提出	イメージに合った音符や休符などを適切に選択して創作するための楽譜のルールを十分に理解している	意図をもって音符や休符などを選択して創作するための基本的な楽譜のルールを理解している	意図をもって創作するために必要な楽譜のルールについての理解が不十分である
思考・判断・表現	実技試験および発表	楽曲を自分なりに解釈した上で明確な表現意図を持ち、それが十分に伝わる演奏をしている	自発的に表現意図を持って演奏していることがうかがえる	ただ演奏するのみで自発的な表現意図が感じられない
	作品提出	音楽を形づくっている要素とその働きが生み出す雰囲気について理解し、表現意図が十分に伝わる作品を創作している	音楽を形づくっている要素とその働きが生み出す雰囲気について理解し、表現意図をもって創作している	作品から表現意図が読み取れない
	ワークシート	音楽を形づくっている要素とその働きについて十分理解し、それらに関連づけ総合的に音楽を味わっていることが記述からみとれる。	音楽を形づくっている要素とその働きについて理解し、それらを根拠に自らが感受したことを記述できる	感受したことは書けるが、音楽を形づくっている要素と関連づけられた記述がみられない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲・態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるグループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	ワークシートの記述	感受したことや自分の考えを、自分の言葉で具体的に記述している	感受したことや自分の考えを具体的に記述している	他者の意見を記述するなど、感受したことや自分の考えを具体的に記述しようとする意欲がみられない

芸術科の育てたい資質能力

- (1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (2) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力
- (3) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
4	豊かな声でハーモニーを楽しもう *校歌 *lemon *この道	<input type="checkbox"/> 歌詞が聴き手に伝わるよう、大きな声ではっきりと歌う。	○		○	C
		<input type="checkbox"/> 発声の基礎を学びよい響きの声で歌い、よく調和する響きをつくることことができる。				A
5		<input type="checkbox"/> 歌詞と旋律の関わりと、それが生み出す雰囲気を感じ取って表現を工夫することができる。		○		E
6	リズムアンサンブルに取り組もう	<input type="checkbox"/> リズムアンサンブルを体験し、読譜力や表現力、アンサンブル力を養う。	○	○		A
		<input type="checkbox"/> グループで楽器や身の周りのもの、声、身体を使い、意図をもってリズム創作に取り組む。				C
7	オペラ・ミュージカルを鑑賞しよう	<input type="checkbox"/> オペラまたはミュージカル作品を鑑賞し、登場人物の関りやそれによってもたらされる演奏効果について理解する。	○	○	○	E
						A

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
8	ギターを演奏しよう	□ギターの種類と楽器の仕組みについて関心を持ち、理解する。	○	○		B
9		□ストロークなどを工夫することで、曲に合った演奏表現をする。		○	○	E
10	和楽器に親しもう	□和楽器の歴史について理解する。		○		E
11		□様々な奏法を用いて親しみやすい曲を演奏し、曲にあった演奏表現の工夫をする。	○	○	○	D
12	ミュージカル・ナンバーを歌おう	□創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方、及び他者との調和を意識して歌う技能を身につけ、表現している。	○		○	C A
		□音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きに感受しながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている	○	○	○	E

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
1	表現を工夫して合唱をしよう	□曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。	○		○	A
2		□創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方、及び他者との調和を意識して歌う技能を身につけ、表現している。	○	○		B
3		□曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・共同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	E

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	美術 I	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	高校美術1（日文）					
副教材						

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	造形的な見方・考え方を働かせて、 □創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解している。 □造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。	A C D
思考・判断・表現	造形的な見方・考え方を働かせて、 □主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 □美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	C D E
主体的に学習に取り組む態度	造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるグループワークへの取り組み C 制作および発表 D 作品 E ワークシート	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	制作および発表	道具の使い方や技法の知識を十分に身につけ、表現意図によって技術を使い分けた制作をすることができる	基礎的な道具の使い方や技法の知識を身につけ、表現意図に沿った制作ができる	基礎的な道具の使い方や技法を身につけていない
	作品	色や形などを適切に選択し、制作するため技法を十分に理解し表現できている	色や形などを意欲的に選択し、制作するための基本的な技法を理解している	制作するために必要な基本的な技法の理解が不十分である
思考・判断・表現	制作および発表	課題をよく理解した上で、明確な表現意図を持ち、それが十分に伝わる制作をしている	表現意図を持ちながら制作に努めていることが見てとれる	課題の理解と表現意図が読み取れない
	作品	課題から豊かなイメージを膨らませることができ、それを形にするためのアイデアを選択しながら制作している	課題を理解することができ、それを形にするために意欲を持って制作している	課題を理解することができず、制作への取り組みが不十分である
	ワークシート	自ら制作する作品を客観的に分析することができ、他者に伝えるためのイメージと言葉を選択し表現できている	自ら制作する作品を客観的に分析しようと努め、他者に伝えようとする意思を読み取れる	自ら制作する作品を客観的に見ることが困難であり、他者へ伝える意思を感じ取ることができない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやエスキース（またはドローイング）などを描き示してことが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	ワークシートの記述	自発的なアイデアや自分の考えを、自らの言葉と図解によって具体的に記述している	自発的なアイデアや自分の考えを記述している	自らのアイデアや考えを記述できていない

芸術科の育てたい資質能力	
(1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力	
(2) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力	
(3) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力	
小山西高校の育てたい資質能力	
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
4	対象をよく観察して描こう	<input type="checkbox"/> 自然物や人工物をモデルに、構造の美しさを学ぶ。				
5	* 静物のスケッチ	<input type="checkbox"/> イメージにそって画面構成をすることができる。	○	○		D
		<input type="checkbox"/> 鉛筆の特性を理解し、必要に応じた使い方ができる。				
6	* 野菜を売り出すポスターを制作する。	<input type="checkbox"/> 普段意識することの少ない「野菜」を改めて見つめ直し、特徴などを学び、イメージをふくらます。	○		○	A
		<input type="checkbox"/> テーマを基に、画面構成を考える。色と形で野菜をアピールするポスターをデザインする。				
		<input type="checkbox"/> コピーと図柄を効果的に構成することができる。	○	○		C
7	映像作品を鑑賞して制作者の技術と思考を学ぼう	<input type="checkbox"/> 実在した芸術家のドキュメンタリーを鑑賞することにより、作品が完成するまでの過程や、制作におけるアイデアなどを学ぶ。 <input type="checkbox"/> 芸術家の作品を鑑賞することで制作への意欲に近づけようとしている。 <input type="checkbox"/> 芸術家の作品から、さまざまな工夫や創造性を汲み取ろうとしている。		○	○	E

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
8	テーマをコラグラフで表現しよう	<input type="checkbox"/> 具象と抽象を理解し、形の持つ意味を考えながら画面づくりを行う。	○	○		C
9		<input type="checkbox"/> 抽象形と画面構成を積極的に理解しようと意欲的に取り組む。	○	○	○	A
10		<input type="checkbox"/> 紙や布等の素材感を意識しながら形を考える。				
11	石による抽象形の立体を制作する	<input type="checkbox"/> 素材の特性を理解し、適した手段で加工する。	○		○	D
12	アニメーションを鑑賞して制作者の技術と思考を学ぼう	<input type="checkbox"/> さまざまな時代のアニメーション作品を鑑賞することにより、その時代背景や当時の社会的関心、映像メディアにおける表現技術などを学ぶ。		○	○	E
		<input type="checkbox"/> アニメーション作品を鑑賞することで制作への意欲につなげる。				
		<input type="checkbox"/> アニメーションの鑑賞を通じて、さまざまな工夫や創造性を汲み取る。				

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
1	3つのパーツと2つのもようを楽しもう	<input type="checkbox"/> 紙の素材感や色について興味をもち積極的に制作する。			○	B
2		<input type="checkbox"/> 素材の特性を理解し、形のおもしろさともようの楽しさを味わい制作に生かす。	○	○		C
3		<input type="checkbox"/> 画面構成を考え、美的センスを生かし制作し、完成させる。	○	○		D

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	英語 コミュニケーション I	単位数	3	履修学年	1	必修
使用教科書	Grove English Communication I (文英堂)					
副教材	ワークブック・英単語帳・リスニング問題集・課題用問題集等					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	A B C D E
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	A B C D E
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	A B C D E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み</p> <p>C 小テスト</p> <p>D 定期試験</p> <p>E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	中間試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト①（主に知識に関するもの）	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が60%～69%	各小テストでの平均点が59%以下
思考・判断・表現	中間試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト②（主に表現に関するもの）	十分に準備をして、テストに臨み、表現力も豊かである	準備はしたが、思うような表現ができていない	準備が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	おおむねすべての課題が提出されている	課題が提出されていない
	小テスト③（主に課題への取り組み状況を見るもの）	課題に意欲的に取り組んだことが見てとれる	課題におおむね真面目に取り組んだことが見てとれる	課題への意欲が見られない

英語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

※評価のためのルーブリックの数値は必要に応じて調整する。

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	Lesson 1 Communication with People Around the World	R	<input type="checkbox"/> よいコミュニケーションのために何が必要であるかを理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	中間試験
		L	<input type="checkbox"/> SV・SVC・SVOの構造を理解し、文の意味を理解することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーションに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。		<input type="checkbox"/>	A	
		W	<input type="checkbox"/> SV・SVC・SVOの構造を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。		<input type="checkbox"/>	A	
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーションについて意見を交換したり、説明したりすることができる。		<input type="checkbox"/>	B	
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し、その一部を暗唱し、発表することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	
5	Lesson2 Pets and Humans: Together Through Time	R	<input type="checkbox"/> 人間とペットの関係の変化に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 名詞句・to不定詞・動名詞を含む文を読んで意味を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	中間・ 期末試験
		L	<input type="checkbox"/> 人間とペットとの関係の変化に関する本文を聞き概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。		<input type="checkbox"/>	A	
		W	<input type="checkbox"/> 名詞句・to不定詞・動名詞を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。		<input type="checkbox"/>	A	
6	Lesson 3 Musubi -Ties and Knots	I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> ペットや動物について意見を交換することができる。		<input type="checkbox"/>	B	期末試験
		R	<input type="checkbox"/> 結びに関する本文を読んで日本人が結びに込めたさまざまな願いについて理解することができる。 <input type="checkbox"/> SV00・SVOC・進行形を含む文を読んで意味を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	
7	Lesson 4 The power of Mushrooms	L	<input type="checkbox"/> 結びに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。		<input type="checkbox"/>	A	期末試験
		W	<input type="checkbox"/> SV00・SVOC・進行形を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスンの要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。		<input type="checkbox"/>	A	
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> 結びについて意見を交換したり、意味を説明したりすることができる。		<input type="checkbox"/>	B	
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し、その一部を暗唱し、発表することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	
		R	<input type="checkbox"/> キノコを用いたいろいろな料理について知り、自然界においてキノコが果たす役割について理解する。 <input type="checkbox"/> 現在完了形 / 過去完了形 / 「S+V+0 (=that 節)」を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	
8	Lesson 4 The power of Mushrooms	L	<input type="checkbox"/> キノコに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。		<input type="checkbox"/>	A	期末試験
		W	<input type="checkbox"/> 現在完了形/過去完了形/SVO (=that 節)を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスンの要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。		<input type="checkbox"/>	A	
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> 日本の森やキノコについて意見を交換したり、意味を説明したりすることができる。		<input type="checkbox"/>	B	
9	Lesson 4 The power of Mushrooms	P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し、その一部を暗唱し、発表することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	期末試験

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	Lesson 5 Braille Neue: Connecting Dots with Lines	R	<input type="checkbox"/> 日常生活で見られる点字等の工夫や点字とデザインについて読み取る。 <input type="checkbox"/> 受け身/分詞の形容詞的用法/助動詞の受け身/to 不定詞(形容詞的用法)を含む文を読んで意味を理解することができる。	○	○		D	中間試験
		L	<input type="checkbox"/> 点字とデザインに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 受け身/分詞の形容詞的用法/助動詞を含む受け身/to 不定詞(形容詞的用法)を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			○	A	
		I	<input type="checkbox"/> デザインについて意見を交換したり、インタビューに答えたりする。			○	B	
10 11	Lesson 6 Is This Meat Real or Fake?	R	<input type="checkbox"/> 食糧問題・環境問題を解決するために代替肉の果たす役割に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 関係代名詞(主格・目的格・what) / to 不定詞(副詞的用法)を含む文を読んで意味を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキヤニングすることができる。	○	○		D	中間・期末試験
		L	<input type="checkbox"/> フードテックに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 関係代名詞(主格・目的格・what) / to 不定詞(副詞的用法)を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> フードテックについて5文程度の英文で表現することができる。			○	A	
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。			○	B	
		P	<input type="checkbox"/> フードテックの事例について必要な情報を収集し、発表することができる。		○	○	C	
12	Lesson 7 Plastic Polluting Our Oceans	R	<input type="checkbox"/> プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 比較/It is~(for~)+to 不定詞/SV00(=that 節)/SV0+to~を含む文を読んで意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキヤニングすることができる。	○	○		D	期末試験
		L	<input type="checkbox"/> プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 比較/It is~(for~)+to 不定詞/SV00(=that 節)/SV0+to~を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			○	A	
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。			○	B	
		P	<input type="checkbox"/> 環境問題やSDGsについて、必要な情報を収集し、発表することができる。		○	○	C	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1 2 3	Lesson 8 Manga: A Global Hit!	R	<input type="checkbox"/> 世界に広がる日本のマンガ文化に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> SVOC(=原形不定詞)/It is+形容詞+that節/SVO(=疑問詞節)/SVOC(=ing)を含む文を読んで意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキミングすることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		D
		L	<input type="checkbox"/> 世界に広がる日本のマンガ文化に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A
		W	<input type="checkbox"/> SVOC(=原形不定詞)/It is+形容詞+that節/SVO(=疑問詞節)/SVOC(=ing)を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			<input type="checkbox"/>	A
		I	<input type="checkbox"/> マンガについて意見を交換したり、会話したりすることができる。			<input type="checkbox"/>	B
		P	<input type="checkbox"/> 本文の一部を暗唱し、発表することができる。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C
	Lesson 9 The Mysteries and Secrets of Petra	R	<input type="checkbox"/> ペトラ遺跡の歴史・文化に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 関係副詞/仮定法過去 / 完了進行形を含む文を読んで意味を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキミングすることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		D
		L	<input type="checkbox"/> ペトラ遺跡の歴史・文化に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A
		W	<input type="checkbox"/> 関係副詞/仮定法過去 / 完了進行形を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関する内容で、必要な情報を含めて自分自身のことについて書くことができる。			<input type="checkbox"/>	A
		I	<input type="checkbox"/> ペトラ遺跡の謎について意見を交換したり、会話したりすることができる。			<input type="checkbox"/>	B
		P	<input type="checkbox"/> 本文の一部を暗唱し、発表することができる。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C
	Lesson 10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	R	<input type="checkbox"/> グレタ・トゥーンベリさんの行動と主張に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 仮定法過去完了/強調構文/分詞構文/ SV00(=疑問詞節など)を含む文を読んで意味を理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		D
		L	<input type="checkbox"/> グレタ・トゥーンベリさんの行動と主張に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A
		W	<input type="checkbox"/> 仮定法過去完了/強調構文/分詞構文/ SV00(=疑問詞節など)を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			<input type="checkbox"/>	A
		I	<input type="checkbox"/> 環境を守るための活動などについて意見を交換したり、会話したりすることができる。			<input type="checkbox"/>	B
		P	<input type="checkbox"/> 本文の一部を暗唱し、発表することができる。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C

学年末試験

※ Lesson 8~10は全て実施せず、選択になる予定。

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

科目名	論理・表現 I	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	MY WAY Logic and Expression I (三省堂)					
副教材	MY WAY総合英語・ワークブック・課題用問題集等					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。</p>
---------	--

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	A B C D E
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	A B C D E
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	A B C D E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み</p> <p>C 小テスト</p> <p>D 定期試験</p> <p>E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	中間試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト①（主に知識に関するもの）	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が60%～69%	各小テストでの平均点が59%以下
思考・判断・表現	中間試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト②（主に表現に関するもの）	十分に準備をして、テストに臨み、表現力も豊かである	準備はしたが、思うような表現ができていない	準備が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	おおむねすべての課題が提出されている	課題が提出されていない
	小テスト③（主に課題への取り組み状況を見るもの）	課題に意欲的に取り組んだことが見てとれる	課題におおむね真面目に取り組んだことが見てとれる	課題への意欲が見られない

英語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

※評価のためのルーブリックの数値は必要に応じて調整する。

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R:読むこと L:聞くこと★ W:書くこと★ I:話すこと(やり取り) P:話すこと(発表) ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲	
				知識技能	思考判断表現	態度			
4	Lesson 1 自己紹介で差をつけよう	R	<input type="checkbox"/> 自己紹介をする英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	中間試験	
		L	<input type="checkbox"/> 学校の場所やあいさつについての二人の対話を聞き取り、理解することができる。			○	A		
		W	<input type="checkbox"/> be動詞の現在形を用いて、学校の場所を紹介する英文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 自己紹介をする内容の英文を書くことができる。	○	○		D		
		P	<input type="checkbox"/> 自己紹介のスピーチができる。			○	B		
5	Lesson 2 わくわくドキドキ学校生活	R	<input type="checkbox"/> 部活動についての英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D		
		L	<input type="checkbox"/> 好きだった科目についての会話を聞き取り、理解することができる。			○	A		
		W	<input type="checkbox"/> 過去形を使って、好きだった科目について書くことができる。 <input type="checkbox"/> 部活動を紹介する原稿を書くことができる。		○	○	C		
		I	<input type="checkbox"/> 好きだった科目について会話をすることができる。			○	B		
6	Lesson 3 アートの世界へ旅立ち	R	<input type="checkbox"/> 好きな絵について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D		期末試験
		L	<input type="checkbox"/> 週末の予定についての二人の対話を聞き取り、理解することができる。			○	A		
		W	<input type="checkbox"/> 未来表現を使って、未来に起こることについて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 好きな絵について5文以上の英文を書くことができる。	○	○		D		
		I	<input type="checkbox"/> 週末の予定について対話することができる。			○	B		
		P	<input type="checkbox"/> 好きな絵について発表することができる。			○	A		
7	Lesson 4 英語でグルメしてみよう	R	<input type="checkbox"/> 日本の食文化を紹介する英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D		
		L	<input type="checkbox"/> 料理を注文するときの会話を聞き取り、内容を理解することができる。			○	A		
		W	<input type="checkbox"/> 現在完了、現在完了進行形を使って、経験したことやすでに行った行動について書くことができる。 <input type="checkbox"/> 日本の食文化を紹介するレポートを書くことができる。		○	○	C		
		I	<input type="checkbox"/> 料理を注文するときの会話をすることができる。			○	B		

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R:読むこと L:聞くこと★ W:書くこと★ I:話すこと(やり取り) P:話すこと(発表) ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
8	Lesson 5	R	<input type="checkbox"/> 地域の特徴やマスコットキャラクターについて述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		D	中間試験
9	伝えよう！町の魅力	L	<input type="checkbox"/> 道案内についての二人の対話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A	
		W	<input type="checkbox"/> 助動詞を使って、場所を詳しくを伝える内容を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 受動態を使って、地域の特徴やマスコットキャラクターについて書くことができる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	
		I	<input type="checkbox"/> 道案内の会話をするすることができる。			<input type="checkbox"/>	B	
		P	<input type="checkbox"/> 地域の特徴やマスコットキャラクターについて発表できる。			<input type="checkbox"/>	A	
10		Lesson 6	R	<input type="checkbox"/> 旅行について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	驚きいっぱい世界旅行	L	<input type="checkbox"/> 買い物についての二人の対話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A	
		W	<input type="checkbox"/> 不定詞を使って、買いたいものや買い物の目的について書くことができる。 <input type="checkbox"/> 旅行先の情報について書くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		D	
		P	<input type="checkbox"/> 行ってみたい場所について、英語でスピーチをすることができる。			<input type="checkbox"/>	A	
11		Lesson 7	R	<input type="checkbox"/> スポーツについて述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	はらはらドキドキスポーツ観戦	L	<input type="checkbox"/> スポーツの試合についての会話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A	
		W	<input type="checkbox"/> 動名詞を使って、スポーツについて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 分詞構文を用いて、スポーツを紹介する文を書くことができる。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	
		P	<input type="checkbox"/> スポーツについてクラスで紹介することができる。			<input type="checkbox"/>	A	
12	Lesson 8	R	<input type="checkbox"/> 科学技術製品について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		D	期末試験
	科学技術で世界は変わる！？	L	<input type="checkbox"/> 紙の本と電子書籍のよさについての会話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="checkbox"/>	A	
		W	<input type="checkbox"/> 比較の表現を使って紙の本と電子書籍のよさについて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 科学技術製品を紹介する英文を書くことができる。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	
		P	<input type="checkbox"/> 科学技術製品を紹介することができる。			<input type="checkbox"/>	A	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R：読むこと L：聞くこと★ W：書くこと★ I：話すこと（やり取り） P：話すこと（発表） ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
1	Lesson 9 元気が一番！	R	<input type="checkbox"/> 健康について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	学年末試験
		L	<input type="checkbox"/> 病院での会話を聞き取り、内容を理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 関係代名詞を使って、健康状態について書くことができる。 <input type="checkbox"/> 健康維持に必要なことについての英文を書くことができる。	○	○		D	
		I	<input type="checkbox"/> 病院での会話をすることができる。			○	B	
		P	<input type="checkbox"/> 健康維持に必要なことについて、発表することができる。			○	A	
2	Lesson 10 世界を変えるのは私たち	R	<input type="checkbox"/> SDGsについて述べた英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	
		L	<input type="checkbox"/> SDGsについての二人の対話を聞き取り、内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> SDGsについて対話することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 関係副詞や仮定法を用いて、SDGsについて書くことができる。	○	○		D	
		P	<input type="checkbox"/> SDGsについてまとめた内容の英文を発表することができる。			○	A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	家庭基礎	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	未来へつなぐ 家庭基礎 365 (教育図書)					
副教材	LIFEおとなガイドデジタル+ (教育図書) わくわくクッキング (教育図書) 楽しく学べるマナーの基本 (教育図書)					

学習の到達目標	<p>ア 人の一生と家庭・家族及び福祉、衣食住、消費生活・環境など生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を想定し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>ウ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに自分や家庭、地域の生活の充実を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけている。	B C
思考・判断・表現	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深めている。	B D E
主体的に学習に取り組む態度	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する興味関心を高め、生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に学習に取り組んでいる。	A C D E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 定期試験</p> <p>C 実技試験・作品提出</p> <p>D ワークシート、実験・実習レポート</p> <p>E 課題の取り組み状況</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	実技テスト	基本的な技術が十分身につけており、計画的に実践できている。	基本的な技術の習得に粘り強く取り組み、実践できている。	基本的な技術の習得ができていない。
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が45～69%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が45%以下
	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
思考・判断・表現	実験・実習レポート	目的を十分に達成し、論理的に考察できている。	目標を達成でき、内容も十分に把握できている。	目的を達成しておらず、内容が不十分である。
	パフォーマンス課題	課題を解決に向け、計画を立て探求し、結果をわかりやすく表現している。	課題を把握しているが、不十分な面があり、思うような表現ができていない。	準備が不十分である。
	主体的に学習に取り組む態度	課題解決に向け、意欲的にワークシートやレポートに取り組んでいる。	ワークシートやレポートをこなし、授業に意欲的に取り組んでいる。	授業に意欲的に取り組んでいない。
主体的に学習に取り組む態度	授業におけるグループワークや実験・実習への取り組み	他者に配慮し、協力しながら意欲的に取り組んでいる。	他者に配慮しながら、自分のやるべき活動をこなしている。	他者理解ができず、やるべき活動をこなしていない。
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みがみられる。	すべての課題が提出されている。	課題が提出されていない。

家庭科の育てたい資質能力

- (1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (2) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (3) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	家庭科を学ぶにあたって HPと学校家庭クラブ	□家庭科を学ぶ目的と内容を理解し、生活から課題を見つけることを意識している。			○	A	期 末 試 験
		□人の一生を通して、青年期の自立が大きく関わることを理解し、自分の生き方を考えている。		○		D	
		□家族・家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活を支える社会制度について理解し、家庭生活と職業生活のあり方を考えている。	○	○		B D	
5	B編 第2章 衣生活と健康	□被服の基本的な機能や性質・用途について理解している。	○		○	A B	
		□基本的な裁縫の技術を身に付けている。	○		○	C	
		□資源の有効利用までを考えた被服計画を立てることができ、課題を解決する力を身に付けている。	○	○		B E	
6	C編 第1章 生活における経済計画	□家計管理について理解し、生涯を見通した家庭管理のあり方を考えようとしている。	○	○		B E	
		□成人年齢引き下げによる法律への影響を理解し、責任ある行動がとれるよう知識を深めている。	○	○	○	B D	
7	B編 第1章 食生活と健康	□食生活の現状と課題について理解している。	○	○		B D	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	D編 ホームプロジェクトに取り 組もう	□生活の課題を見出し、改善しようとしている。		○	○	A E	期 末 試 験
	B編 食生活と健康	□食と健康の関わりについて知り、各栄養素の特徴とその食品について理解している。	○			B	
9		□安全で健康的な食生活を送るための基本的な知識と技術を身に付けている。	○		○	B C	
10		□行事食・郷土食・伝統的な食品加工等の食文化と背景について理解し、将来の担い手である意識を持っている。	○	○	○	A D	
11		□自分の食生活を分析し、現代の食生活の課題について考え、解決する力を身につけている。		○		B E	
	A編 第4章 高齢期の生活 と健康	□高齢社会の現状と支え合いのしくみについて理解している。	○	○		B D	
		□高齢期の心身の特徴を理解し、生活支援の基本的な介助技術を身に付けている。	○		○	A C	
	第3章 子どもの生活 と保育	□生命を育むことの意義と重要性を知り、将来親になるための責任について理解している。		○	○	A D	
12	A編 第5章 共生社会と福 祉	□自助、共助、公助について共生社会の実現のための課題について考えている。		○	○	E	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	A編 第3章 子どもの生活と保育	□乳幼児の心身の発達の特徴と遊びの意義について理解している。	○		○	A B	学年末試験
		□子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、課題解決に向け実践しようとしている。		○	○	B D	
2	B編 第3章 住生活と住環境	□住まいの役割、住空間、住環境について理解し、環境に配慮した住生活について考えている。	○	○		B D	
		□快適な住まいを考え、平面計画が立てられる。	○	○		C	
3	C編 第2章 持続可能なライフスタイルと環境 第8章生活設計	□環境に負荷のない生活について考え、実践しようとしている。		○	○	A D	
		A編 第1章 生涯の生活設計2	□人生を通して生活資源を生かした自分の生活設計について考え、実践しようとしている。		○	○	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

